下宮忠雄／Tadao Shimomiya　Japan

**●コロナの俳句**

二句らしい、コロナのやつめ、いまにみろ！

Hateful corona / is surging the world over, / you’re doomed in a year.

**●夏石番矢『犬　５０俳句』短評**

**俳句／Haiku　Ban’ya Natsuishi／Nacuisi Banja／夏石番矢　　　　絵／Aquarells　Éva Pápai／パーパイ・エーヴァ**

**『KUTYAK／DOGS／犬 50 HAIKU／俳句』　　Balassi Kiadó　Hungary　2019　ISBN: 978-963-456-058-6**

　神様が犬に言った。お前は人間に食べさせてもらいなさい。人間には三種ある。一番大きなものはその家の主人だ。こわいぞ。二番目はその家の主婦だ。これは優しい。三番目は子供だ。子供は小さくて、お前と同じくらいの大きさだ。かわいいぞ。この三番目と仲良しになりなさい。

　これを書いている私は、ウイーダ女史の『フランダースの犬』パトラッシュしか知らないが、イヌは人間の心をよく知っている。少年ネッロとパトラッシュの間柄は、人間同士以上の関係だ。画家をめざした少年ネッロは、少女アロアとの恋もかなわずに、空腹と寒さのために15歳で死んだ。パトラッシュは、人間年齢で言うと80歳で、やはり空腹と寒さのために死んだ。

　この俳句集に登場するイヌは、ブルドッグ、パピヨン（チョウチョウ）、ファラオ、スピッツ、ダルメシアン（ダルマチアは言語学に出る）、ポメラニアン（スラブ言語学に出る）、サモイェード（ウラル言語学に出る）、ボルゾイ（ロシア語）…と頁をめくっていったら、フランダースの犬があった。フランダースの犬、パトラッシュは前の飼い主にさんざん酷使され、水も食事も与えられずに川端に捨てられていたのを、5歳の少年ネッロとそのおじいさんに介抱されて、死んだ状態から生き返った。

イヌ（サンスクリット語 śvān シュヴァーン、ラテン語 canis カニス、ギリシア語 kúōn キュオーン、ドイツ語hundフント）は印欧祖語の時代（紀元前4千年紀）からあるが、猫（7英語cat, ドイツ語katzeカッツェ、フランス語chatシャ）は、エジプト起源で、印欧祖語には、なかった。最近のネコは横着で、ネズミを捕らないばかりか、人間以上に高価なものを食っている（これはイヌも同じだが）。